

平成 27 年 1 月 29 日

報道関係者各位

国立大学法人 筑波大学
株式会社 LSI メディエンス

筑波大学と LSI メディエンスによるドーピング検査における 検体分析法開発に関する共同研究契約の締結について

国立大学法人筑波大学(所在地:茨城県つくば市、学長:永田恭介、以下「筑波大学」)と株式会社 LSI メディエンス(本社:東京都千代田区、社長:吉原伸一、以下「LSIM」)はドーピング検査における検体分析の研究開発に関して、平成 27 年 1 月 29 日、共同研究契約(以下「本契約」)を締結いたしました。本契約は、日本国内において、大学とドーピング検査における検体分析機関との間で初めて締結される、分析法開発に関する契約となります。

本契約に基づき、筑波大学医学医療系 竹越一博教授の研究グループと LSIM アンチドーピングラボラトリーは、主要な禁止物質の一つである遺伝子組換えエリスロポエチン(Recombinant erythropoietins:rEPO)[※]によるドーピングを、液体クロマトグラフィー質量分析法を用いて検出する分析法の研究開発を実施します。現在のドーピング検査における rEPO の検出法である電気泳動法は、分析に数日を要するほか、多くの人的資源が必要であり、一層の分析効率の向上が求められています。本研究では、電気泳動法に代わる、高精度かつ迅速に rEPO の検出が期待できる液体クロマトグラフィー質量分析法の確立を目的としています。

LSIM のドーピング検査事業を担うアンチドーピングラボラトリーは、国内で唯一、世界アンチ・ドーピング機構(World Anti-Doping Agency、WADA)の公認を受けた検体分析機関です。本研究を通して、筑波大学の強みの一つであるスポーツ科学分野の知見と、LSIM アンチドーピングラボラトリーが有する経験豊富な分析スタッフと最先端の設備を生かし、協働することによって、アンチ・ドーピング活動の一層の発展に寄与することを目指します。

※ 遺伝子組換えエリスロポエチン(Recombinant erythropoietins:rEPO):腎機能障害や貧血などの治療薬として用いられる物質で、スポーツ競技において酸素運搬能や持久力の向上を意図したドーピングにもしばしば使用される。

問い合わせ先

筑波大学 広報室

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp

Tel: 029-853-2039

株式会社 LSI メディエンス 総務・法務・知財部 総務 G 広報担当

〒101-8517 東京都千代田区内神田 1-13-4 THE KAITEKI ビル

E-mail: nakano.jirou@mw.medience.co.jp

Tel: 03-5577-0401